

令和 2 年度の献血実績の評価について

1. 令和 2 年度実績の評価

- 令和 2 年度において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響があったが、多くの方の御協力により、輸血用血液製剤及び原料血漿の安定供給に必要な血液量を確保することができた。

- 令和 2 年度における延べ献血者数は、対前年度約 11 万人の増（2.3%増）の 503.8 万人、献血率は前年度 0.2 ポイント増の 6.0%となった。
（参考）
 - ・ 輸血用血液製剤の供給本数は、対前年度で約 2.0%減少
 - ・ 原料血漿の国内製造販売業者等への配分量（在庫取崩量を除く）は、人免疫グロブリン製剤等の供給量の増加により、対前年度で約 1.7%増加

- 若年層の献血者数について、令和元年度においては対前年度約 2 万人増加（1.2%増）したが、令和 2 年度において、延べ献血者数は対前年度約 7.8 万人減少（4.3%減）となった。この要因として、新型コロナウイルス感染症拡大による学校献血の中止が大きく影響したと考えられる。

2. 令和 4 年度献血推進計画策定にあたっての方向性（案）

- 将来にわたって安定的に献血者を確保するためには、若年層の献血者数及び献血率の増加を図るための各種取組について、引き続き、重点的に推進する必要がある。

- 令和 2 年度の年齢別献血率によると、18 歳では 5.9%、19 歳では 5.8%で、昨年度の 8.1%、7.5%から減少した。24 歳以上から 30 代半ば頃まで横ばいその後緩やかに上昇する傾向は令和元年度と同様となる結果となった。

- これらを踏まえ、令和 4 年度献血推進計画の策定にあたっては、以下の項目を重点的に推進することとしてはどうか。
 - ① 10 代については、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大による影響が見られたが、令和元年度までは 10 代の献血者数及び献血率が改善傾向にあることを踏まえ、引き続き、学校献血や各種普及啓発の実施を通じて、初回献血者の確保を中心とした取組を行うとともに、個々の献血や web 予

約の推進も並行して進める。また、継続的な献血の協力を得られる取組を検討する。

- ② 20代・30代については、近年18歳、19歳をピークに30代半ばにかけて減少する傾向が見られることから、仕事や家事等で忙しい方が少しでも献血する機会を確保できるよう、利便性を高めるとともに、一度献血を経験された方が、継続して繰り返し献血に協力いただくための取組を検討する。
- ③ 新型コロナウイルス感染症拡大による献血時の対応について、令和3年度献血推進計画より「新興・再興感染症のまん延下」においても、採血事業者は献血環境の保持と献血者への感染防止を図るとしているが、今後の状況を踏まえて引き続き記載することを検討する。